

看護大学 だより #5

新しい学び・人・キャンパス
福岡看護大学の魅力を
ご紹介します!



梅香る2月の終わり、1期生にとつて初めてとなる臨地実習(基礎看護学)が九州大病院など7つの病院にて行われました。この実習は、健康障害や入院によって生じる変化が対象者の日常生活行動にどのような影響を及ぼすのか、療養生活を観察し、対象者が最適な生活(we-being)を営むために必要な援助を実践する能力を養うことを目的としています。緊張いっぱいの子学生達でしたが、受け持ち患者さんに助けられ、病院スタッフの厳しくも温かいサポートを受けながら、机上の学習とは違った学びと素晴らしい成長をすることができました。椎葉七樹さんは、「患者の情報全てを考慮して援助計画を立てることがいかに難しいか実感した。病気の理解だけではなく患者さんの情報から援助中の留意点、実施する時間帯などの考えに繋げるための知識や一人一人の患者さんに対応できる援助技術が必要だと学んだ。」と、実習を振り返った感想を述べていました。援助を実施した際、患者さんから感謝の言葉をいただいたこ



とも、とても嬉しかったようです。学生だけでなく教員も全力で取り組んだ基礎看護学実習。学生たちがこれからのように成長していくのか、楽しみです。
(大久保つや子・寒水章納)

短大 VOICES #5

夢を叶える場所「福岡医療短期大学」
多くの出会い・絆を育んでいる
短大の情報をお届け!



福岡医療短期大学
歯科衛生学科 教授
升井 一朗

福岡医療短期大学は、福岡歯科大学とともに平成29年度文部科学省/私立大学研究ブランディング事業に選定されました。本ブランディング事業では「口腔機能向上でイキイキ長寿社会の実現」をメインテーマに、次の4つの研究、A. 口腔機能管理、B. 栄養改善、C. 運動機能維持向上、D. 地域住民主体の社会資源創出を設定し、健康寿命の延伸に資する多面的研究を展開していきます。今回はC. 運動機能維持向上グループの顔面骨格と口腔運動機能との関係に関する研究を紹介します。私たちは、「顔面骨格の形や大きさが嚥下機能に影響を及ぼす」との仮説を立て、健康高齢者を対象に嚥下機能と顔面骨格形態との関係を分析しました。その結果、嚥下機能は下顎の前後的・上下的位置と関係がある可能性が示唆されました。今後は、多変量解析等により「顔面骨格形態から口腔機能の低下を予測する数学的モデル」の開発や、口唇閉鎖力と口腔機能および顔面骨格形態との関連を検討し、QOLの改善につながる要因を探求していく予定です。